まき

発行所　西蒲原郡巻町公民館
編集人　保刈郡司
印刷所　昭和時報社

新任の御挨拶

巻中学校長　片桐　薫

恐縮に存じますが町の公民館報を通じて、皆様方に御挨拶を申させていただきます。

今回御縁がありまして皆様方の中学校の校長として御厄介になることになりました。前任者の田中先生が円熟された御人格をもつて、抱負抱負を実践されました後を、未熟短才な私が引受けてやる事は、眞に重荷であり、困難さを痛感するのであります。殊に私は御当地には、はじめてでありまして、教育実践の基盤をなす地域のことに、至つて暗く、この点更に不安を増している次第であります。幸に皆様方の御力添によりまして、この危うげなる出発を、元気で突進することが出来ますならば何より幸甚と思つております。

申すまでもなく中学校教育は六・三・三の学校教育体系中、最も軌道に乗らない、しかも旧來の伝統と試練とを持たぬ新世帯であり、又生徒の心理上よりみても最も問題の多い教育しにくい年層の子供であります。或は新教育のことを考えましても、比較的新しい教育のやり易い小学校と、実力本位に徹し得る高等学校との中間にあつて、右すべきや左すべきやこれ又悩みの多い教育であります。加うるに御当地の如く高等学校入学の難関もある事等考えますと、愈々其の責任の重かつ大なることを感ずるのであります。

更に私は教育そのものの性質を考えてみまするに、非常に重要な仕事ではあるが、その効果に至つては肉眼に見えにくいのであります。従つて経済問題と取りくむと常に負け易いのであります。

こうした幾多の難点を克服して、突進するには、皆さんの誠意ある御後援、熱意ある御援助、御理解ある御協力がなかつたならば不可能であります。学校と地域社会との完全なる一体によつてのみ実績をあげ得るのであります。

私は着任の際、あの高層な新校舎を仰ぎ、皆様方の教育に関する熱意の程を拝し感激を深くしたわけです。この校舎で学ぶ子供達の幸は申すまでもなく、私も、私達職員もほんとうに幸福であると思いました。この感激を忘れず、良心的に教育を進めたいと念じております。

皆様方も善意を以て御協力下され「子供達の幸福のため」という、最終の目標を達成し建設していただくように切に御願申上げる次第であります。

× × ×

なほ皆様方の公民館に審議会委員として、関係させていただく事になりました。多忙な学校教育を本務とする私には重過ぎる仕事でありますただ皆さんの既につくられた公民館運動の雰囲気の中に浸らせていただいて、社会人としての正しい修養を積みたいと念じています。教育者も社会人として正しい人間でなければならぬと思います。公民館の仕事に仲間入りさせていただき、個人的には正しい人間になる機会として反省努力し、委員としては現実と理想とをにらみ合せた建設的な立場を尊重しつつ皆さんと共に進みたいと思います。何卒よろしく願います。

巻町議会議員選挙開票結果（四・二三）

三八二	井沢一二	河治忠
三〇二	吉田和吉	久保田一
二九四	土田藤孫子	幸田久作
二五九	星井豊作	安川政次郎
二二四	玉木鹿蔵	小林清策
二二二	村松次一	八木沢菊蔵
二一三		中野文作
二一二		渡辺嘉雄
二〇一		
二〇〇		
一九五		
一九三		
一八四		
一八二		

國保だより

四月十九日午後一時より巻町役場に於て赤ちゃん大会を開催した。出場者百二十四名のうちより左記の入賞者を決定した。

男子

一等　今井一郎氏長男　邦博　五区
二等　桑原正義氏長男　正男　一区
三等　藤田金治氏二男　喜代治　十区
四等　竹内芳栄氏長男　英雄　一区
五等　有坂鉄男氏長男　洋一　八区

女子

一等　田辺隆一氏長女　悦子　五区
二等　大橋ハル氏二女　ウメ　九区
三等　柳原義明氏長女　寛子　四区
四等　櫛浦十四二氏長女　まつい　十二区
五等　山岸精一氏長女　町子　三区

尚郡予選会に出場される巻町代表は男子有坂鉄男氏長男の洋一さんと女子柳原義明氏長女の寛子ちゃんが生年月日の関係上選ばれました。

一六九	小林太蔵	白崎一二
一六九	吉川吉輔	大原政治
一六八	水倉庄松	齋藤作次
一六八	笹川亀松	沢栗健一郎
一六七	久保田梅治	内藤直作
一五〇	池上為五郎	大滝卯三郎
一四五	福田幸作	岡村太計雄
一四一	伊藤正	梅沢義治
一四一	山添清一郎	竹内長永知

次点

一一八	一三六
一一六	一三六
八二	一二六
八一	
六五	
五三	

◎有権者数　五九七四
総投票数　五六三七
有効　五五九四
無効　四三
投票率　九四、二%

◇県知事選挙開票結果（四・三〇）

三一七五	岡田正平	白崎一二
八三五	安中忠雄	大原政治
七五五	井伊誠一	齋藤作次
五四八	玉井潤次	沢栗健一郎
		内藤直作
		大滝卯三郎
		岡村太計雄
		梅沢義治
		竹内長永知

総投票数　五、四八四
有効投票　五、三一三
無効　一七一

◇県会議員選挙開票（四・三〇）

二八七九	水倉新作	加藤孝一
一三六九	高田弥雄司	田辺久太郎
三八五	田村高作	江口秀雄
一九一	小林茂工門	
一四五	鈴木太吉	
一二六	高野六太郎	
一〇六	今里耕作	
一〇五	楫妻仙次郎	
四〇	酒井登	
三五	岡田幸平	
一六		
八		
二		

総投票数　五、四八八
有効投票　五、四〇七
無効　八一

はがき回答

町議会の中に團体（グループ）を作るべきか

町議会議員の選挙も間近に迫りました。戦争前はわが巻町においても中央の政党そのままを反映し、二つに分れていたようでございますが、戦後は大部分の議員は各々独立独歩で行動せられたようでございます。

この二つの傾向のうち果してどちらかがわが巻町の行政の上にプラスが多いか、御考えをおきかせ願いとう存じます。尚どちらであつても簡単にその理由をおきかせ願えれば更に幸甚です。

一、町会の中に団体（中央の政党そのままでなくとも）を作つた方がよい

二、団体など作らないで議員はあくまでも独立独歩、個人の責任において行動した方がよい

「理由」

十三区　小林　栄一

二、わずか三十人たらずの町会でいやな党臭や団体臭がついたら、かえつて町のためにプラスが出まい民本主義の指導原理は時間的制約さえなければ、あくまでも最大多数の自己独創の精神にある筈。

七区　齋藤　作次

二、作る必要はないと思います。理由は町会内にも七、八人の団体がありますが、町行政の面に於てマイナスになつております。個人の正しい意見も団体の規約等に依つてセーブされる恐れがあると思います。

五区　佐藤　幸作

二、政党色のないそして対立のない明るい個人の公平なる意見によつて実行力に富む行動を愈す故に。

四区　長野　正夫

一、確固たる信念を持たず、一種の名誉職として頼に依存する人の多い現状では満足なる行政は望め得ず、日和見主義を廃し、行動には責任を持つて反対党と活潑に戦つて町の発展に寄与する。

五区　鈴木　一雄

二、団体の政治は得て力の政治に陥り易い。町村の如き小さな自治体は力の政治よりも融和の政治でありたい、従つて政党よりも個人を選ぶべきでないかと思う。

十三区　長沼　春

二、団体的徒党に町政をまかすことは絶対反対する。

一、ボス（親分）的町政になるから

二、暴力の街になる懸念あり

三、よき社会人としての教養を忘れ勝ちである

四、町民の輿論を聞かずに自分等徒党で気勢を上げてよろこぶ気配あり

町政はあくまでも独立独歩愛町の信念を貫き通す志操と教養の人によつて築き上げねばならない。

七区　丸山　幸男

過去四ヶ年の経験でしかなく、日浅き為め、未だ甲乙つけがたし。

五区　笛本甚一郎

二、団体の力が町会に強く反映する事は、町政治をある一方に強引に引きずる事になり、長所より欠点の方が多くなる。

三区　村山卯右工門

二、団体、党派に拘束せられ、各自の真の意志表示が不能の事が多い

一区　松村　広

二、町会は国会並に県会の決議により基本方針の定まつた制限付自治体であり、党派の存在は反つて党利党略に偏し、公正を欠く憂が濃いから個々の議員の研究と良識によつた方が正しい判断のもと町町民の発展と福祉を得られると確信する。

四区　高橋　弘

二、吾々は眞実な町議を待望する。身近な郷土の諸問題を身をもつて解決せんとする眞実性は聖ばかりのグループ内の存在からは決して生れない。因縁的存在を排し、自主独立性を主張する。

十三区　大沢　橋次

二、①政治となり横暴を極めることがある。

②中央政党の指令に束縛されて地方の実情に副はぬことがあり、常に他党を敵視して私交上にも影響する虞れあり。

六区　池上　治郎

二、1. 党派的に行動しないから概して平和が保たれる。

2. これがしつかり固ると個人の意志の発表が出来ない場合が生ずるおそれがある。

3. 過去の業績からも作らない方がよい。

七区　森川　謙一

二、町会に於ける何々系何々ライン存在の噂はボスの背景を感ぜさせて不愉快、個人の責任に於て是々非々の態度が最も良識ある態度と思ふ。

六区　古俣　保

二、町会の中に於て団体を作る事は派ばつ斗争を捲き起す恐れがあり然も正当な批判力を失う様になる団体など作らず、議員各自が町民の為に行動をとるべきであると思ふ。是々非々のもとに町発展と町民の幸福のためお互に協力して行けば団体を作るよりよい。

感じたまま

中野　四・シ

人々も太陽の如くに美しくゆたかな慈愛に充ち、相触れるものを伸ばし楽しませる、人格にまでなり得たら、世の中も、どんなにか気持のよい、住みよいものとなる事であらう。

嫉視、反目、己の立場の為には、他をかへりみず、人を押し抜けて、平然と通る、この様な例は、あまりにも多く見せられる事である。

この間某県知事候補者の中傷的の、ある新聞記事を見て、何か不快の感がした。

問題の善悪はともあれ、今少し堂々と斗ひないものかと。

どの様な人でも、完全であり、みんのすきもない人間は、よほどの聖人でない限り、一寸あり得ないと思う。

どんな悪いと言はれる人でも、何時も悪いとは断言出来得まい。

よくある事だが、人の欠点や、噂を聞きたがり、人の悪い事を聞いた時、「そんな事が、あの人にあつたのか、人は見かけによらぬものですね」と、何かよいものでも、もらつた様な顔をして、悦ぶ、瀬戸物もそつと見て居れば、判らぬ傷も、たたくと判る様に、私なども常に、ものごとに積極的に動きすぎるのか、自分の不徳や、あやまちが、余りにも多く出て悲しくなる。

何時になつたら、スラスラと無理も傷もない、人間になれるのだらうと深く反省させられる。

それでも私は何時も心に希ふ事は、四人に対して、冷い批判のみに走る他事をつつしみ、自己中心の主張に四はれず、何より反目をさけて、お互ひにほほえみつつ、議論も研究もして行き度い事と、世の中に勝つても、心の晴れない勝ち方もあろう、悦こびの湧かない、自己中心の勝ち方は、むしろ不快のものではなかろうか、負けても感謝される負け方であつて欲しいと言ふ事を。

以上

◉町民と消防◉

徳吉　昭吾

巻町は昔から火事は少ないとして世間から見られているが去る三月下旬町の詩りとして良い矢島酒化場が一朝の灰と化したる事は皆様と共に残念でたまりません。いざ焼失して終つたとなると町民の炉辺談話は消防団又団員のありかた等々いつも言うのが常である。火事の無い節は消防なんて無関心の様である。無関心どころか〝消防へ勤める人は半農家の酒飲みの親父の出るものと言へ合うやうなもの。

そこで私は小さな一消防員としてまだ浅はかな体験を述べさせて戴き町民皆様より消防いや町の愛護をお願ひ致す次第です。

（四面五段へ続く）

やみ汁

選挙につき、なにもかにも休業やみ汁屋も休業します

公民館だより

◎文庫

永い間町の方々に大変親しまれてきた巻町文庫も今庭町の都合に依りまして、役場の二階に移転いたす事になり只今準備中でありますので、今しばらくお待ち下さい。

◎映画サークル

皆さん御存知でしようか。巻町に映画サークルの結成されました事を。映画サークルは毎月、町の映画館に上映されます。映画の中より二三本を推薦して其の推薦映画の合評会とか、座談会などを時々開くことになつています。推薦委員は当分の間笛木甚一郎、高橋新一、高橋哲男、鹿児島達夫、横田ふじ、長沼ハルの各氏。尚会員には会員証をお上げし、毎月其の月の初に推薦した映画を「はがき」で会員にお知らせいたします。会員は推薦映画に限り入場の際二、三割程度割引されます。今月の推薦映画は七日のレ・ミゼラブル大会、十日の幸福の設計、二十七日の火の女であります。会費は当分の間三十円戴きます。

入会御希望の方は推薦委員又は公民館の係刈に申し込み下さい。

（会員は現在五十四名となつています）

◎芸能まつり

五月十七日午後六時より藤見座に於て巻町の各種芸能団体と協力の上で春の芸能まつりを開催いたします。

一、諸曲

二、琵琶

三、歌謡

四、琴

五、演劇

六、長唄

七、舞踊

八、義太夫

◎染色の講習会

五月中旬巻小学校に於て染色の講習会を開催いたします。受講は誰れでも随意で、御希望に依り特に生地をお出しになれば実費（染料、燃料代）で染めてもくれるそうです。

◎定期講座

中旬より開講すべく準備いたしております。

◎成人講座

中旬、マ元帥の解任と日本に於ける其の後の影響。（予定）

学校だより

新入一年生に望むもの

巻中生活指導部

純眞にして溌剌な新一年生が希望溢れる瞳をかがやかせて颯爽と入学して参りました。処変れば風変るとは言うものの、小学校から中学校へ来たとたんに学校の経営方針が全く一変するが如きはあり得べくもなくただ義務制中学校の独自性に鑑み、各教科学習との関連に於て是非とも卒業までにしつけなければならないことは可及的速やかに方向づけなければならないものがあるやに思うしかも入学当初は心機一新して修得意欲に燃えている教育の好機なれば第一は遊びと学びをはつきりすることである。人間生活、特に今日のような経済情勢下の日本人の生活では遊戯と労仂とは両立しない。できるだけ少く遊んで、できるだけ多く仂かなければならないのが現実である好き放題に遊ぶことが直に学ぶことであり、仂くことであると云うような「遊びながら学ぶ」態度はわれ〳〵のとらざるところ、一切を忘れて学び、考える慣性を養わねばならないとかく巻の生徒は動的な面は活潑であるが、幽的な思索の訓練には大いに欠けるところがある。

第二は清楚な言動である。戦後の子供のしつけが乱れ、言葉づかいも、礼儀も、親切心も、思いやりも、尊敬心も、何もかも目茶苦茶になつている姿に想を到す時、あえて天野文相の口から、かつて「修身科のようなものがほしい」といふ言葉を聴かなくとも我々には深く反省させられるものがある。現在のままに推移せんか、まさしく亡国の堕落現象なりと嘆ぜざるを得ないものがある故に。

廊下の歩行、師弟間の会話、学校用具の扱ひ方、友達同志の態度、長上に対する正しい礼の仕方等日常卑近な学校生活の各事象を通して、もつとなごやかな雰囲気の中でお互が矯正し合つて行くようにあらしめたいものだと念じている。限られた紙面で余り要約し過ぎてかえつて意に満たないところがあるが、以上新年度の感を闡明しておきたい。

（未完）

五月の婦人会だより

講演会　期日五月六日午前九時より

場所巻小学校

講師金子　彦二郎氏

金子彦二郎氏は岩室村橋本出身の文学博士で東京女子高等師範学校に講師として二十数年教育に従事し現在は学習院の講師として勤務される本郡出身の逸材である。この度は公民館西蒲連絡協議会と西蒲連合婦人会の共催で春期大講演会を開催致しますが、午後は映画、舞踊、歌謡曲とレクリエーションも盛沢山に多数の御参集を待つてゐます。

染色講習会

期日　五月十六、十七日　午前九時より

場所　巻小学校

講師　桐生の機業地より来町の予定

何処の御家庭でも色のさめた不用に近い衣類があるものですが私達の手で更生利用致しませう。講習料は無料ですが、実習の染物について染料其他の実費だけ戴きます。洋服でもカヤでも大きくてあつかいにくい品物を御遠慮なく御出し下さい。主催は巻町婦人会と巻町公民館です。何方でも御出席下さい。

農家だより

巻町興農協議会主催の第一回牛馬耕競技大会は四月一日午前八時三十分より、中学校前で挙行、出場牛馬四十数頭、十株耕起に馬は平均十六分四十秒、牛は平均二十分三十九秒であつた。入賞者は左記の通り

馬の部

一等　渡辺　忠蔵

二等　中村藤一郎

石山　権吉

三等　石山　栄蔵外四名

牛の部

一等　中野　吉平

二等　丸山　熊一

萬人の迷惑は一人の遅刻から

まだおくれる（四月）

一、公民館運営審議会（四月八日）二〇分（一、〇〇～一、二〇）

一、婦人会理事会（四月九日）一〇分（10、00～10、10）

一、芸能　一〇分　四〇～七、五〇）

一、弘報部会議（四月　一五分（八、〇〇～八、一五）

〇分（八、〇～八、〇〇）

スポーツ

巻町公民館主催県下選抜トップボール野球優勝大会は快晴の四月十五日斯界の強豪六チームを集めて巻町立中学校のグラウンドに於て江端町長代理助役の開会の挨拶、片桐中学校長の祝辞と更らに江端さんの始球式により熱戦の火ぶたは切られた。地元代表の巻高校チーム並びに巻クラブも始終よく善戦、互格に試合の駒を進めたが惜しくも一回戦に敗れ去つた結局晴の優勝杯は三戦全勝の新潟鉄道病院チームに輝いた。

◎一回戦

全ツバメ5A——4巻高校

鉄道病院10——7巻クラブ

◎二回戦

ニュースター11——0全ツバメ

鉄道病院2——1新潟交通

◎決勝

鉄道病院10——7ニュースター

三等　増井　栄一

内藤　亀次外二名

第三回労仂省主唱の、婦人週間の行事が、四月十日より、一週間繰広げられたが、県に於ても中央に呼応して、婦人少年局新潟職員室主催で多彩な行事が行はれたが、二日目の十一日午後一時より、新潟市越佐自治会館に於て「婦人の市民活動と生活の合理化」を議題に地方婦人問題会議を開催、みのり会から久保田トシ、土橋リカ、長野定江、陶山スイの四氏が出席された。

四月二十二日夜みのり会では吉田地区生活改良普及員解良千秋氏を招ねき、赤縮公会堂に於て、生活改善一般の座談会を開催、盛会裡に午後十一時終了。出席三十数名

四月三十日修農会では午後一時より、農協係員指導の下に動力噴霧機の操法の講習会を開催、出席二十数名、今後は分解、組立て等の指導も受け、技術陣の応援に一役買い、病虫害防除の万全を期する事とした。

讀書欄

（皆さんにもお進めしたい本）

「少年期」 波多野勤子著

中学一年生から高等学校入学までの四年間母と子が日記ふうに手紙のやりとりをした生活記録である。心理学者たる母親が自分の息子を学者としてではなく平凡な母親の愛情を以て、一生のうち最も変動のはげしい少年期から青年期への移行時期を息子と共に苦しみよく導いてゆく道程が興味と感動を以て読まれる。その間、疎開の問題や学友に対する問題又戦争反対論の父親に対する反抗と終戦後はじめて知る父親への尊敬の念等自我意識に伴ふ反抗期から自己克復による自我肯定への過程が深い母と子の愛情を以て書かれてゐる。近來感動を以て読んだものの一つである。

（渡辺顕雄）

読書といつてもつまみ食い程度の私にこゝな事が云えるかどうか問題ですが、とにかく此の本をよんで何か自分が得しようとか、勉強しよう等と意識していると中々面倒になつて來ます。もつと気軽に楽しみ乍ら何でも読みたいものです。

むずかしかつたら辞書を引き乍らでもまあまあ読んでみたらと思つています。そしてたとえ一行でもいい言葉があつたとか、又、何か心にショックを覚えたならばそれでもう成功なのではないでしようか、

そんなごく簡単な気持で読んだものの中から今臓裡にあるものを二、三あげてみたいと思いますが

・ゲーテの「若いエルテルの悩み」
・ルソオの「懺悔録」
・モオパッサンの「女の一生」等女の方でまだお読みでなかつたら誰の訳でも一度眼を通されて如何かと思います。それからトルストイの「アンナカレーニナ」これは私自身残念乍らまだ熟読してないのですが是非落着いて味わつてみたいと思つていますし、皆さんにもお進めしてよいものではないかと思つて居ります。

（古寺 妙）

二千冊突破運動

新入庫図書

現代イソップ　福田恆存（訳）
新たぬき汁　佐藤垣石
コンティキ号「漂流記」　T・ヘイエルダール
三太物語　青木茂
三四郎　鈴木敬介
運動年鑑　夏目漱石
汚れた手　朝日新聞社
息子の青春　サルトル
風と共に去りぬ（上中下）　林房雄
M・ミッチェル
民俗学辞典　柳田国男
フロベール　鈴木信太郎訳
ぶらりひようたん一、二巻　高田保
源氏物語草子（桐壺）　舟橋聖一
ミスターアダム　バット・フランク
演劇五十年　戸板康二

雑歌抄

保刈 さだむ

久々に叔父が來るとて燈の下に釣竿調べる手しづかなる父

ポマードの奥き枕掛を取りかいぬ新聞紙敷きて行儀よく寢む

パーティーに踊りいし娘が今朝早く車体洗ひ居たり背伸びなしつつ

すず播ける田の面に小さき波立ちぬ黒き小鳥の影うつりゆく

駄菓子屋のほこりかむりて並べ売る そこはかのリンゴ選りて買い來ぬ

拔書閲書覚書

康平図

次には康平図の番であるが、第一眼につくのは西蒲原郡卷町の地である。地名辞書に

卷町、人口五千二百、本郡の治所にしての中央に位置す。西川の右岸、新潟を去る七里、地勢下濕、川沢の間とす。

とあり、五万分一の実測図によれば海拔約四米の底地にあつて、当時未だ水中のものである。若し海拔四米の大部分は既に陸地であるべき筈である。三条も加茂も甚しきは今日の長岡をすら、海中のものとせる作者がひとり卷町をのみ拾い挙げたのは滑稽でないか。

（越後古代史之研究一六三頁）

龍燈

築紫のしらぬ火といふは古歌にもあまたよみて、むかしよりその名たかくあまねく人のしる所なり。その然るさまは春暉が西遊記にしらぬ火を視たりとて、詳にしるせり。其しらぬ火といふも世にいふ龍燈のたぐひなるべし。我国蒲原郡に鎧潟とて——里言に湖を潟と云——東西一里半、南北へ一里の湖水あり。毎年二月の中の午の日の夜、酉の下刻より丑の刻頃まで、水上に火燃るを里人は鎧潟の万燈とて群り視る人多し。余が友人これをみたるをききしに、かの西遊記にしるしたるつくしのしらぬ火とおなじさまなり。近年湖水を北海へおとし新田となりしめゑ、湖中の万燈も今は人家の億燈となれり。（北越雪譜　岩波文庫二一五頁）

越後往來はじめの巻

第三大区弥彦駅、此の地に鎮座まします、伊夜日子神社と申すめる岩室石瀬角田浜、卷より出る木綿糸、和納素麺吉田より機織出す白木綿、地蔵堂には四九の市、燕の町は金銀や、鋼細工数多し、国上の山の黄連はいとも聲き健胃剤

此の山頂上の国上寺、其の造営の原由は孝謙帝の御宇なり。

（白崎一二氏藏）

俳句

小林 一雨

春の雨オルゴール古りて鳴ることなし

早乙女の白き肌着を越えて蝶

菜の花やキャンバスにある瞳を感ず

春灯や妻となる人睫毛濃し

夕虹を背にすべタルを強く踏む

春愁や從きくる犬も老いし貌

奇石

卷町久我家に晴雨石と云あり。形大黒天の如く色漆黒。堅一尺二寸、幅一尺、厚さ六寸にて九〆匁。雨の前日は水気を含み露重る。晴の前日乾く。

卷町南はづれ草薙神社の旧跡とて二間四方の荒地なり。ここに平な十〆匁の石あり。里人愛して家へ持帰るに、いつの間にか帰ることしばしばなり。

（温故の栞合本第三巻一八頁）

（二面五段より続く）

早くも今年の町神社大祭も近ずきましたが去年祭の一夜夜警の巡番が当り若いものであるが夜警に出して貰はれる事を誇りとして遊びたい祭の夜ですが勤めましたが。ちやうど私の二分団ポンプ小屋は神社脇にあり私外三名は小屋の前に机を置いて万一の場合の待機を致して居りました、着飾つた男女が楽しさうに前を行き來しましたが誰一人〝ごくろうさん〟と言つて通つて呉れる人が無く、言つて呉れるところか、私の知人は「馬鹿くさい消防か」と卑下する様な言葉を後に行つて了う。「御苦労さん」などと言つて貰い度いとは思つて居りませんが、私は心の中で裏切られた様な気持で残念でした。

小さな事の様ですが、小さな事が大事なのでないでせうか、消防ばかりで無く町の発展を図る有志の粉骨奉公の心が鈍るのでは無いかと思はずに居られません。

大都市の様にポル一つで速に自動車ポンプ幾台も出動するところまで町としてはまだ行つて居りませんのでまだ町民皆様と消防との間に暖い心の結りがあつても良のではないでせうか。

又私達消防員としても皆様が日夜安心して楽しく暮される様にと常に心に願つて居るのですから。

（第二分団消防員）